

■ イベント開催状況

'15男女共同参画市民フォーラムinいわみざわ

『あなたの明るい未来を拓こう』

平成27年7月4日(土)ホテルサンプラザにおいて、いわみざわ男女共同参画プラン推進市民会議及び岩見沢市の主催により、男女共同参画市民フォーラムが開催されました。

本年度は、社会活動家であり法政大学教授の湯浅 誠(ゆあさ まこと)先生を講師にお迎えし、「男女共同参画と地域活性化」と題しお話をいただきました。

講演前には、北海道教育大学岩見沢校の学生4名によるオープニングコンサートを行いました。

■ オープニングコンサート

北海道教育大学岩見沢校の2年生、仲村 優美江さん、佐川 彩名さん、合田 咲希さん、阿部 淳穂さんの4名によるフルート四重奏コンサートを行いました。

フルートの繊細なメロディで「グランドカルテット」「美女と野獣」「ふるさと」「見上げてごらん夜の星を」の全4曲を聴かせていただき、華やかな演奏に大きな拍手が贈られました。



■ 講演「男女共同参画と地域活性化」



◆理想状態はみんなが100%の力を出し切れること

社会活動家として貧困問題等に取り組んで来られた湯浅先生は、色んな地域活性化の取組を見てきた経験から、島根県海士町や秋田県藤里町などの具体的な取組事例を示した上で、自身の考える理想状態は住民一人ひとりが100%の力を出し切れる状態で、どう100%に近づけていけるかが地域の活性化に繋がるとおっしゃいました。

◆女性は眠っている「宝」

現実的には、引きこもりやホームレスなど力を十分に発揮できていない人がおり、特に女性は人口の半分を占めているのに、地域で活躍できていないのが現状です。湯浅先生は、そのような人達は地域の眠っている宝で、チャンスがあればもっと力を発揮できると述べられました。

眠った宝である人達が、支えられるだけでなく人を支えていかに地域で生き生きと活動できるかが地域活性化には重要で、そのためにはどうしたらその人達が支え手になれるような場面づくりができるかを、考えていかなければならないとのことでした。

その方法は一つではないと、来場者の皆さんでディスカッションを行い、会場は活気にあふれた雰囲気となりました。



◆地域活性化の敵は「心の過疎」

また、湯浅先生は地域活性化の敵として「心の過疎」を挙げられました。住民自治の聖地と言われる安芸高田市の川根地区自治会長の辻駒氏が述べた言葉であり、大変感銘を受けたそうです。

「人が数字の上で減っていくのは深刻なことだが、それ以上に深刻なことは、その町にいるお年寄りが『昔は良かった』と言って今を否定することで、そういう人の目は死んでいる。」そのような状態が「心の過疎」であり、そのような死んだ目をした住人が住んでいるところに、若者が暮らしたいと思いませんか？と問いかけました。



◆頭の中にある衣装ダンスの服を増やそう

みんなが活躍できる場面づくりには、地域の住民があの手この手を打ち出していくことが求められますが、その「あの手この手」を考えるには自分の頭の中にアイディアの元がないとできないと湯浅先生はおっしゃいました。

アイディアを生み出す元を服に例え、服が少なかったら色々な場面には対応できないけれど、服が増えていけば、フォーマルな場でもバーベキューに行くのでも、なんでも対応できるようになる。服が増えていくことで人として豊かになり、そういう人が増えることが、地域の豊かさにつながっていくので、頭の中の衣装ダンスに服を増やして行きましょうとお話を結ばれました。



☆フォーラム参加者の声（一部抜粋）

- 地域の活性化には、人とひとのつながりが支え助け合う地域を構築することにあると感じました。※支えあうコミュニティづくりが大切と認識【70代以上男性】
- 色々なお話を聞いて大変良かったです。これからに向けて進みたいと思うようになりました。【60代女性】
- 男女共同参画、ちょっとですがふれた気がしました。時間的余裕が少ないですが、これからの子育てが終わってからの時間、どうするのか少し考えます。貴重な時間をありがとうございました。【40代女性】
- もちつもたれつの関係の大切さを再認識させていただきました。ありがとうございます。【40代女性】
- 引き出しの服の数がヒントになった。【60代男性】
- 地域活性化のヒントを得ることができて良かったです。【60代女性】